

重点的に取り組んだ活動・内容

項 目	実 践 状 況
1 実践1 【人権に関する道徳の授業実施】	各学年の道徳の授業において、人権に関する題材を年間計画に盛り込み、生徒の人権意識を高めることを念頭に置いて授業を実施した。 成果 クラスでのいじめ問題を扱った生徒に身近な資料や、国際社会での問題といったグローバルな題材など、生徒が多様なものの見方や共感的な理解をするのに役立った。 課題 単学級であるため人権に関する題材が各学年バラバラで、担任同士で同じ題材について意見を交換することができない状況となっている。教員同士での深め合いの機会も検討したい。
2 実践2 【IBI(本校独自のいじめ撲滅委員会のこと)・JRC委員会による行事的な活動】	IBI・JRC委員の生徒が毎月第3月曜日に正門の前に立ち、登校した生徒一人一人にむけて声をかけるあいさつ運動を行った。さらに、IBI・JRC委員が中心となり、坂本小の児童たちと坂本小学校付近で、地域に向けて朝のあいさつ運動「小中合同あいさつ運動」を行った。 また、生徒総会に合わせて、全校生徒でいじめ問題について考える集会を開催し、「いじめゼロ宣言」を行った。 さらに、『「さわやかサロン」会員の方々へ、あなたの“優しさ”を届けてみませんか?』をキャッチフレーズに、日立南交流センターで開かれている独居高齢者の方々の集い「さわやかサロン」に、毎月1回生手紙を送るボランティア活動を、2年生を中心に実施した。各月の集いにも参加し、レクリエーションや会食を共にし、楽しむことができた。  成果 居心地の良い学校の雰囲気をつくり、生徒一人一人の自己存在感を高揚させることができた。「小中合同あいさつ運動」では、小学生と協力してさわやかにあいさつ運動を行うことができ、小中の連携が深まった。 また、みんなが楽しく過ごすために何が必要か深く考える場を生徒が企画立案を行って設定し、全学年が参加して話合う予定となっている。 課題 活動を始めた当初の目的意識が薄れてきており、活動が形骸化している様子がみられる。今一度活動の意義や目的を生徒に考えさせる必要がある。学校統合に伴う在校生の減少により、生徒一人一人の負担が増加している点も考慮しながら、今後もより多くの生徒が活動に参加できるよう呼びかけていきたい。